

経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⑦②

じんちゅうのりゅう

人中之竜

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『早川浩士の常在学場』(簡井書房)、『介護人財創造塾』(簡井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

非凡な才能を発揮するには……

2012年の干支の辰には、草木の形が整った状態を表していること、ある意味があり、神話上の動物である竜が割りあてられた。

竜は、恐竜(化石時代の大型爬虫類)、竜神(神格化された竜)、竜宮城(乙姫などが住むという想像上の宮殿)、竜顔(天子の顔)、竜駕(天子の乗り物)、臥竜(天にも昇る勢いや能力をもちながら、じつと横になって寝ている竜にたとえ、蜀の諸葛孔明になぞらえ優れた能力をもちながら、世に知られていない人物)など、いずれも優れているという意が含まれている。

多くの人のなかにあつて、才能が非凡で、計り知れないような人物のことを「人中之竜」という。

出自は、『晋書』の「爰歎曰く。名ハ聞クベケレドモ身ハ見ルベカラズ、徳ハ仰グベケレドモ形ハ観ルベカラズ。吾而今而後、先生ノ人中之竜タルヲ知ルナリ」にある。

非凡とは、多くの人よりはるかに優れていることをいい、そのよくな人のことを「非凡な人」という。

その逆が平凡であり、そうした人のことを「平凡な人」という。

ゲーテの名言に「自分にできること、あるいは夢に思い描いていることはすべて実行に移すことだ。大胆であれば、非凡な能力と不思議な力を発揮できる」とある。

非凡な才能を発揮するには、大胆さを欠いてはならない。「非凡(な人)と平凡(な人)」の違いはここにある。

亢竜有悔

中国の黄河土流の急流には、こを登った鯉は化して竜になるといわれ、竜門伝承となった。登竜門がある。

困難ではあるが、そこを突破すれば立身出世の道が開けるといふ由来は、『後漢書』に記された故事による。

また、天に登っていく竜、その姿を描いた絵のことを「登り竜」というが、鯉の滝登りとしても知られている。

だが、天高く昇りつめた「亢竜」は、それ以上に昇ることができなくなるばかりか、それ以後は下るしかなくなるため、それを悔いるしかないという「亢竜有悔」を記し

た『易经』には、「亢竜悔イ有リトハ、盈ツルトキハ久シカルベカラザルナリ」と、富貴栄華を極めることを戒めている。

介護保険制度の施行とともに起業し、創立10周年を迎えた事業所の多くは、臥竜鳳雛(優れた人が好機をつかめず、市中にうずもれていたというたとえ)から、人中之竜として地域ケアを支える要としての期待が高まっている。

だが、勘違いをしてはいけない。

高いつもりで低いのが教養

低いつもりで高いのが気位

深いつもりで浅いのが知識

浅いつもりで深いのが欲の皮

厚いつもりで薄いのが人情

薄いつもりで厚いのが面の皮

強いつもりで弱いのが根性

弱いつもりで強いのが自我

多いつもりで少ないのが分別

少ないつもりで多いのが無駄

といふつもり違い十ヶ条を説いた言葉がある。

頭は竜のように立派だが、尾は蛇のように尻すぼみになるという意から、初めは勢いがよいが、終わりはふるわないという「竜頭蛇尾」とならぬよう、巳年に向けて心を引き締めた。